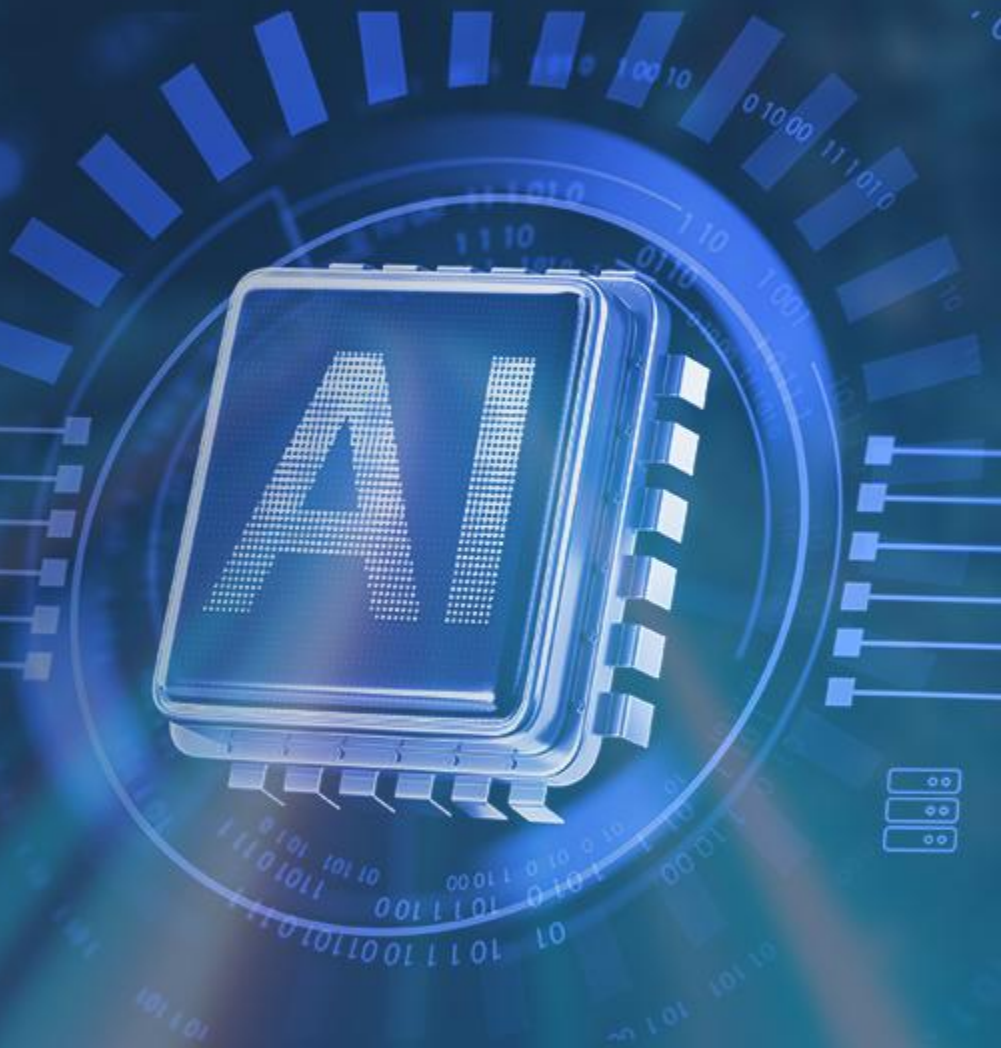
AI-DRIVEN DEVELOPMENT

# AI駆動開発ご紹介




設計・製造・テストをAIが主体で進める、次世代の開発スタイル

# 目次

INDEX


01 AI駆動開発の市場動向
THE REALITY OF THE MARKET

02 AI駆動開発とは
WHAT IS AI-DRIVEN DEVELOPMENT

03 サービスの核と推進アプローチ
CORE & APPROACH

04 自動化の範囲と効果
SCOPE & EFFECT

05 独自の仕組みと品質担保
HOW IT WORKS & QUALITY

06 導入事例・環境
CASE STUDIES & ONBOARDING




Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# AI駆動開発の市場動向

THE REALITY OF THE MARKET

AIは「使う」段階から、開発プロセスに組み込み、品質を担保し、成果につなげる段階へ。

IPA・総務省の公的データで見ると、AI利用は急速に広がる一方、事業成果・組織定着にはまだ大きなギャップがあります。

**総個人の生成AI利用経験者率**

58.8%

生活・仕事の中で、
生成AIを使う経験が急速に一般化。

令和8年版 情報通信白書

**AI導入による効果で**
**「期待通り/期待以上」の率**

31.8%

「期待どおり／期待以上」の効果は限定的。

IPA「DX動向2026」

**売上・利益向上があると回答した率**

3.9%

業務効率化・迅速化が中心。

IPA「DX動向2026」

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# なぜ、成果につながりにくいのか

WHY THE VALUE GAP EXISTS

個人任せのAI活用を**「仕組み化されたAI駆動開発」**へ転換します。

### 公的データから見える課題

**× 用途が“効率化”に偏りやすい**

要約・文書作成・検索が中心。事業高度化や価値創出用途は限定的。

**× 人材・ノウハウが不足しやすい**

DX人材の量は85.5%が不足。AI関連人材も多くの種別で不足が過半数。

**× 品質・統制・効果測定が後追いになる**

AI活用が個人依存になると、生成物の品質や成果が再現しにくい。

### 成果を出すための方向性

**✓ AI前提でワークフローを再設計**

詳細設計・製造・単体テストなど、効果が出やすい工程から組み込む。

**✓ レビュー・品質基準を標準化**

AI生成物を人が判断できるよう、INPUT・規約・レビュー観点を固定する。

**✓ ノウハウを再利用可能な資産へ**

プロンプト、スキル、サブエージェントを部品化し、属人化を排除する。

公的データから見える課題は、AIそのものの性能ではなく、業務・開発の中にAIを“仕組み”として組み込めていないことです。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# AI駆動開発とは

WHAT IS AI-DRIVEN DEVELOPMENT

## 設計・製造・テストをAIが担い、開発を大きく高速化する

生成AIを“主役”に据え、人はレビューと判断に専念する開発の進め方です。

1

### 開発リードタイムを短縮

設計・製造・テストをAIが並列に実行し、着手から完了までを大きく短縮

2

### 品質を安定化

手順を仕組みに作り込み、担当者に依らず一定の品質を担保

3

### ノウハウを資産化

サブエージェント・スキルを組織の資産として蓄積し、横展開

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# これまでと、これから

OUR JOURNEY

## RAG活用から、AI駆動開発の実践・資産化まで積み上げてきた

### FY24

**RAG活用の導入**

社内ドキュメント検索・FAQ自動回答を実装し、基盤をパッケージ化

### FY25

**開発自動化に着手**

業務自動化のエージェント開発。自社の開発工程へAI適用を開始

### FY26

**本格推進・資産化**

AIを軸に自動化を推進。サブエージェント／スキルを資産化し複数PJへ展開

実践で得た知見を再利用可能な資産として体系化し、プロジェクト横断で開発生産性を高めています。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# サービスの核：仕組み化されたAI

STRUCTURED AI

## 誰がやっても同じ品質・生産性になる「仕組み化されたAI」

### 一般的なAI活用

**人が毎回チャットで指示する**

**課題**

・指示の巧拙で結果が変わる（属人的）
・品質にばらつき、レビュー工数が増える

### 仕組み化されたAI

**指示をアセットに作り込み、呼び出すだけ**

/generate-design
/fix-failing-tests
bug-fix-helper

**効果**

・誰が呼び出しても同じ品質・生産性
・ノウハウが組織の資産として蓄積

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved.

# 推進アプローチ

APPROACH

## 実践で磨いた資産と育成で、御社の開発に定着させる

### 01　社内で実践

Claude Code等を自社開発に適用し、知見と課題を蓄積する

### 02　アセット化

サブエージェント／スキル／スクリプト／ガイドを再利用可能に体系化

### 03　他PJへ展開

各プロジェクトへ横展開し、横断で開発生産性を高める

### 土台：人材育成

**Claude Code 研修**

アセット（スキル／サブエージェント）の使い方を習得

**開発／実装力の育成**

自力で開発できる人材を育成し、内製力を高める

**品質力の育成**

JSTQB準拠のテスト品質を担保

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# サービス全体像

END-TO-END SCOPE

## 効果の大きい工程で、AI活用を推進




人が主体（AI補助）　AI活用が効果的な工程

**AIが効果を発揮する工程**

| 詳細設計 | 製造 | 単体テスト | 結合テスト |
| --- | --- | --- | --- |
| 設計書を並列生成 | コードを自動生成 | 生成～自律修正 | 打鍵を自動化 |

要件定義から総合テストまでの一般的な開発工程のうち、AIは詳細設計～結合テストで特に効果を発揮します。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 設計工程の自動化

DESIGN AUTOMATION

## 設計書づくりの工数を、大幅に削減する

### 新規開発時

| | |
|---|---|
| INPUT | RFP／機能要件／非機能要件 |
| AI並列生成 | 上位～下位の設計書を短時間で初回執筆 |
| 人がレビュー | AI生成物を確認・修正し品質を担保 |

**効果：設計工数を大幅削減。短期間で網羅的な設計書一式**

### 既存システム改修時

| | |
|---|---|
| INPUT | 改修要件／既存設計書一式 |
| AI影響調査 | 既存設計書を横断的に分析 |
| 修正箇所を特定 | 各箇所の改修要否をAIが判定 |

**効果：影響箇所の特定を自動化し、調査工数を圧縮**

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved.

# 製造～テストの自動化

BUILD & TEST AUTOMATION

## 製造と単体テストは、AIで大幅に自動化できる

### 製造

1. **設計書をインプット**
   機能ごとの個別設計書と一覧系設計書を与える
2. **AIがコード生成**
   精度の高いプログラムを自動生成
3. **レビュー**
   設計書・規約通りかをAI／人で確認

### 単体テスト

1. **テスト仕様書・コード生成**
   仕様書に則ったテストパターンを作成
2. **テスト実行**
   生成したテストを実行
3. **自律修正ループ**
   成功するまでコードとテストをAIが修正
4. **レビュー**
   仕様書通りのテストかを確認

インプット資料を適切に与えることで精度の高い生成を実現。テストは成功するまで自律的に修正します。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved.

# 導入効果

EXPECTED EFFECT

## 製造・単体テストで、削減効果を最大化する

### 設計

削減効果

**中**

人の介入は必須。執筆時間を短縮。既存改修で効果中

### 製造

削減効果

**大**

設計書通りの実装をAIが生成。レビューもAIで実施可能

### 単体テスト

削減効果

**大**

仕様書作成～コード生成～実行～修正まで自動化可能

### 結合テスト

削減効果

**小～中**

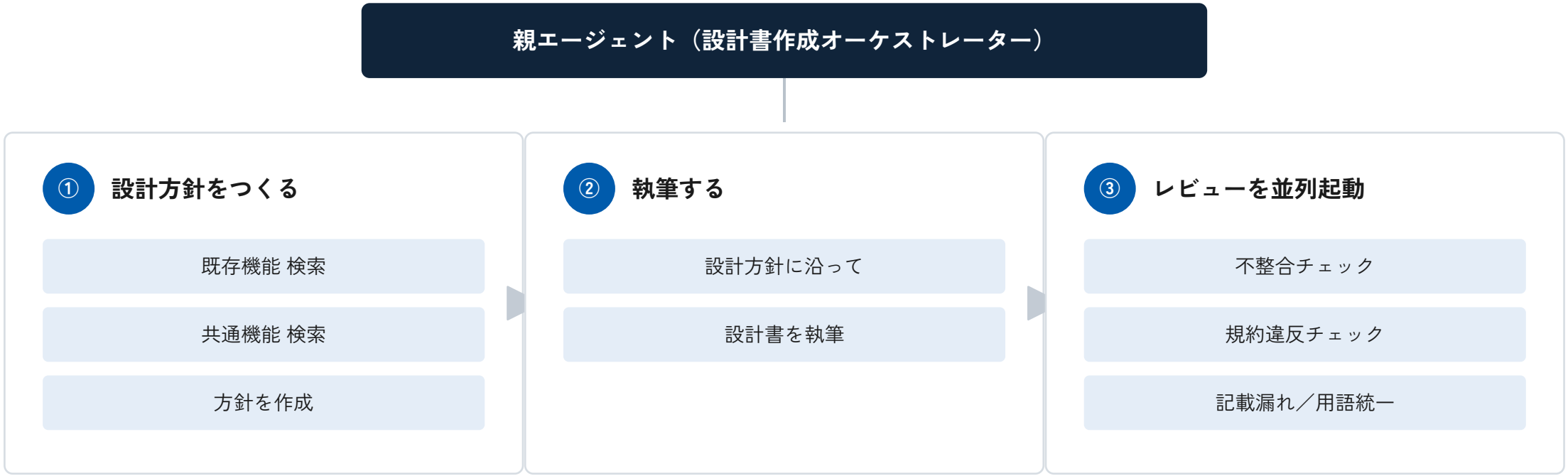
画面打鍵の自動化は可能。サーバ作業は人が実施

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 独自の仕組み：AIエージェント連鎖

AGENT ORCHESTRATION

## コマンド一発で、AIが自律的に高品質な仕事を完遂する




コマンド一発で起動 → 細かい指示なしに、AIが数十分にわたり自律的に高品質な仕事を完遂します。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 属人性を排除する仕組み

NO KEY-PERSON DEPENDENCY

## 属人性をなくし、人は判断と並行作業に集中できる

### 1 仕組み化されたAIを構築

スキル／サブエージェント／支援スクリプトで再利用可能なAIを構築

### 2 属人性・ばらつきを排除

生産性の違いや品質のばらつきを排除。細かい作業ごとに自動化

### 3 すぐ呼び出して実行

詳しく指示しなくても、定義済みのAIをすぐ呼び出して実行

**効果：手作業もAIに任せ、人はキックして並行作業に集中**

- 設計書作成エージェント（自動実行中）
- コード生成エージェント（自動実行中）
- テスト実行エージェント（自動実行中）

同時に、人は別作業を進行。待ち時間ゼロでスループットを最大化します。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# なぜ「仕組み化」すると良いのか

WHY STRUCTURED AI WORKS

## 大きな仕事を丸ごと渡すと、結果がブレる——小さく区切るほど、安定する

**丸ごと渡す**　「この機能を作って」と丸投げ → AIの解釈の幅が広がり、実行のたびに違う結果が出る（再現性が低い）

**小さく区切って渡す**　作業を細かい単位に分け、手順・観点・規約を固定 → 誰がいつ実行しても、アウトプットが一定に保たれる

### お客様にとってのメリット

- 誰が・いつ実行しても品質が一定（属人化しない開発）
- 工程ごとに検査が入るため、間違いの早期発見・手戻り削減
- 担当者の交代や増員があっても、品質が落ちない

### 当社にとってのメリット

- ノウハウが部品として蓄積し、次の案件はさらに速く
- 経験の浅いメンバーでも同じ品質 → 体制が組みやすい
- 改善が資産へ還元され、提供力が上がり続ける（FDEの土台）

**たとえ：職人への丸投げでなく、工程を分けて検査を入れる「製造ライン」。だから誰が作っても同じ品質。**

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved.

# 人とAIの役割分担

HUMAN x AI ROLES

## 「全自動」ではない――AIが作り、人（PV）が品質を担保する

### AIが担うこと

- 設計書の執筆、コードの生成
- テストの作成・実行・自律修正
- 規約チェック・不整合チェックなどの一次レビュー

### 人（PV）が担うこと

- 生成物のレビューと最終判断（品質の担保）
- お客様の業務・要件の理解と、AIへのINPUT整備
- サーバ作業など、自動化に向かない領域の実作業

**この「人が品質を担保する」部分こそ、QAで培ったPVの強みの見せ場**

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 導入事例

CASE STUDIES

## 多様な現場で、AI活用の効果を実証している

### 旅客サービス業｜基幹アプリ開発PJ

**開発チームに生成AIが定着**

8.3／10

業務効率の向上（実感）

### 決済プラットフォーム｜保守承継・リプランPJ

**設計を可視化し品質を地固め**

5本

基本設計書を新規整備

### 大手保険グループ向け｜生成AI活用推進支援

**全社の生成AI活用を推進**

約30,700時間／年

削減（単年度）

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved.

# 導入事例① 基幹アプリ開発PJ（旅客サービス業）

CASE 01

## 生成AIが開発チームに定着し、効率と品質を両立

| 5/7名 | 8.3/10 | 2.6/10 | 6領域 |
|---|---|---|---|
| 高頻度で利用（毎日3名） | 業務効率の向上（実感） | リスク深刻度（低水準） | 活用範囲の広さ |

### 活用が広がった6領域

| | | |
|---|---|---|
| 開発・実装支援 | 調査・トラブル対応 | テスト・品質向上 |
| 設計支援 | 文書・連絡作成 | 情報整理・要約 |

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 導入事例② 決済プラットフォーム 保守承継・リプラン

CASE 02

## 設計を可視化し、品質を地固めして安定リリースへ

| 4 | 5本 | 42.4% |
|---|---|---|
| 対象サブシステム | 基本設計書を新規整備 | 単体テスト未実施を可視化 |

### 背景・課題

・承継・ソースリバース前提（引継ぎは最小）
・基本設計書が不在／詳細設計が実装と乖離
・未クローズ・未実施テストが多数

### AI活用と効果

・不在の設計書をソースから整備（5本）
・未実施テストを数値で可視化（裏取り）
・移管成果物を量産／クライアント環境内で再生成（持ち出しなし）

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 導入事例③ 大手保険グループ向け 生成AI活用推進支援

CASE 03

## 全社の生成AI活用を、常駐＋遠隔で推進し成果を創出

**約30,700**

時間／年 削減（2024年度）

**約5,800**

プロンプトテンプレート作成数

**約8,400**

ユーザー数（前年比 ＋700）

### 支援内容

・生成AI活用推進チームに参画し、施策全般を支援（要員2名の常駐＋1名の遠隔ラボ型）
・社内AIプラットフォーム（RAG）の精度向上検証、コーポレート・事業各部門の多様な業務での活用検証
・遠隔ラボでの新モデルの性能調査・技術検証、および教育支援
・導入初期段階から約2年にわたり参画を継続

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# 導入環境・進め方

ONBOARDING

## 既存環境を大きく変えず、スモールに始められる

| 使用するツール | 必要な資材 | ネットワーク |
| --- | --- | --- |
| Claude Code | ソースコード一式 | AWS Bedrock 利用 |
| Visual Studio Code | 設計書（マークダウン化） | または SaaS版 Claude |
| （利用できない場合はCLI） | 変換ツール（当社提供） | いずれでも動作可能 |

お客様の開発PC上に実行環境を構築。既存環境を大きく変えることなく導入できます。

Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved. 

# CONTACT

**お問い合わせ**


MAIL　prv-infoshare-ml@pro-vision.jp

TEL　045-872-4000（代表）

【営業時間】9:00–18:00　【定休日】土曜日・日曜日・祝日


ProVision


〒220-8140　神奈川県横浜市西区みなとみらい2丁目2番1号

横浜ランドマークタワー40階／38階／33階


株式会社ProVision

https://www.pro-vision.jp/


Confidential – Do Not Distribute Without Permission © ProVision Inc. All Rights Reserved.